



独立行政法人 産業技術総合研究所



地質調査総合センター 第20回 シンポジウム

# 地質学は火山噴火の推移予測に どう貢献するか

2013年1月22日(火) 13:15~18:00  
秋葉原ダイビル コンベンションホール

## 【開催趣旨】

産総研では、多様な噴火現象を理解しその活動推移を予測するために、地質学的・物質科学的な調査・研究を行い、噴火履歴の把握とそれを引き起こしたマグマ活動機構の理解を進めている。本シンポジウムでは、火山噴火推移予測への地質学・物質科学の貢献について、産と官の立場からご講演頂くとともに、産総研で行われている最新の研究成果を紹介し、火山国日本において「安全で安心な社会を構築」するための研究のあり方について議論する。

## プログラム

開会挨拶 佃 栄吉  
本シンポジウムの趣旨と構成 篠原 宏志

基調講演  
産業界から見た火山防災の地質学的新手法  
アジア航測株式会社 技師長 千葉達朗

産総研における研究成果1 国内事例  
富士火山の噴火の特性と想定される噴火災害 山元 孝広  
伊豆大島の噴火シナリオ高度化に向けて 川辺 禎久・石塚 治

ポスターセッション コアタイム  
産総研及び産業界・官公庁で行われている火山研究 (20件程度)

提言講演  
火山活動予測に地質学など物質科学的手法が果たす役割と期待  
気象庁地震火山部火山課長 山里 平

産総研における研究成果2 新手法と海外事例  
感度法による K-Ar 年代測定システムの高精度化  
山崎 誠子・松本 哲一  
岩石学的手法による噴火研究 - 霧島火山新燃岳噴火を例として -  
斎藤 元治

過去 1000 年間に 3 回も巨大噴火が起こった  
インドネシアから学ぶこと 高田 亮・古川 竜太

全体質疑  
閉会挨拶 牧野 雅彦

主催：産業技術総合研究所 地質調査総合センター  
後援：一般社団法人全国地質調査業協会連合会

会場案内：  
JR線・京浜東北線「秋葉原駅」徒歩1分  
日比谷線「秋葉原駅」徒歩4分  
銀座線「末広町駅」徒歩5分  
つくばエクスプレス「秋葉原駅」徒歩3分



参加費：無料  
定員：150名  
CPD (土地・地質技術者の生涯学習ネット)：4.75 単位

参加お申し込み：  
地質調査総合センターのウェブサイトよりお申し込みください  
<http://www.gsj.jp/researches/gsj-symposium/sympo20/index.html>

お問い合わせ：地質調査総合センターシンポジウム事務局  
gsjsympo20-ml@aist.go.jp TEL：029-861-3687



新燃岳の噴煙 (2011年1月27日)